全国奄美会 2015

東京奄美会、神奈川奄美会を率いて復帰50周年の
一大イベントを成功させ、神奈川人として、
医療人としての功績も名高い、
第17代 東京奄美会会長（平成14年10月～18年10月まで）
田中達三氏に、島への思いを伺います。

出身地：奄美大島　瀬戸内町瀬相
生年月日：昭和5年1月24日（85歳）

私の履歴書

神奈川奄美会・東京奄美会 前会長
社会福祉法人湘南福祉協会 総合病院 湘南病院 理事長

田中達三

★密行で故郷の先輩のいる神奈川へ

私は現在、「社会福祉法人湘南福祉協会　総合病院 湘南病院」の理事長を務めさせていただいております。設立者である瀬田良市先生には遠く及ぶべくもありませんが、瀬田先生の意志を継ぎ、地域の医療福祉に微力ながらでも貢献できればと施設やサービスの改善に取り組んでおります。

思えば昭和26年（1951）、密行の形で船と列車を乗り継ぎ横浜駅にたどり着いた私は、さっそく同郷（瀬戸内町）の先輩である瀬田先生を訪ねました。諸先輩の存在に勇気づけられながら、神奈川県立の宿泊所で新生活をスタートさせ、掃除やボイラー焚きをしつつ中央大学第二法学部に学び、その後神奈川県職員として採用され、ながらく地方自治に携わる半生となりました。

神奈川県監査委員の任期を終えたあとは、神奈川県観光株式会社の社長として私なりの観光福祉を実行、その後は神奈川県漁業信用共同組合代表理事長を経て、瀬田先生の強いご要請もあり現職に就いた次第です。

★私の務め・若い皆さんの務め

私が自ら生きた証にしている一つに、神奈川県議会局長当時、昭和59年（1984）に『神奈川県非核兵器宣言』の議会議決を取りつけたことがあります。言うなれば核兵器廃絶と平和宣言です。

世界の主要国に伝達されたこの宣言の可決は、職責をかけての仕事であり、また奄美に生まれ育ち、戦禍に生き抜いた一人の人間の仕事であったと今でも誇りに思っています。

私は、瀬田先生に「人間は故郷を忘れたら駄目だよ」と教えられながら半生を生きてきました。

故郷を思うということは、すなわち一大民族運動を始めとするシマの歴史にまでさかのぼり思いを馳せるということです。自主独立と領土保全に駆け回った同胞の存在を含め、日本の近現代史の中で奄美の復帰運動は改めて評価されなければなりません。

私たちの世代が若い世代に当時の体験をいかに伝えていくか、また彼ら戦争を知らない世代が歴史を踏まえていかに「戦争」と「平和」という問題について真剣に考えるか。それは「生きている」あるいは「生かされている」私たちの最も大切な、切実な務めだと思うのです。

このことを日夜、胸に留め置きながら、

仕事においては医療福祉と高齢者福祉事業に働き、東京奄美会や神奈川奄美会に携わってきた経歴においては故郷・奄美の振興に努めてまいる所存です。

神奈川奄美会のあゆみ

★戦後の混乱期、神奈川の医療福祉に奔走した先輩方

神奈川奄美会について語ることと、奄美の復帰運動と上京者の支援に情熱を傾けた、神奈川の諸先輩方について語ることはまさに同義です。

昭和20年の終戦直後、外地から戻るも故郷が焼け尽され帰る家とてない人など千人を超える人々が続々と神奈川の地に降りたちました。そうした人々に援助の手を差し伸べたのが、当時神奈川で社会福祉に携わっていた有志のメンバーでした。

そのひとりであり、後に東京奄美会、神奈川奄美会の会長も務められた、瀬戸内町出身の瀬田良市先生は、こうした状況下、「大切なのは、やはり医療だ」と発心、戦後の大混乱のさなか病院を設立されたのです。その設立の目的は、「すべての人が貧困の差なく、より良い医療を受けられること、そして医療を通して社会福祉に奉仕すること」でした。

高い志を持って医療福祉に専心しながらも、決して故郷・奄美のことは忘れない。すなわち、広い仕事として故郷のために精一杯奔走したのです。

瀬田先生が70年前に建てられた病院は、現在も横須賀市・追浜駅前にあり、「社会福祉法人湘南福祉協会　総合病院 湘南病院」として設立者の意志と使命を継いでいます。

★同胞の血の叫び、嘆願署名録が横浜港へ

ひるがえって故郷・奄美では、講和条約調印の昭和26年を前後に、祖国復帰を貫徹すべく群島同胞あげての祖国復帰運動が熾烈を極めていました。

群島では祖国日本復帰嘆願の署名、断食祈願の決行、決起大会が繰り返され、本土においても街頭署名運動や国民的総決起集会などが開かれ、広く国内外の世論に訴えたのです。なかでも群島在住満14歳以上の99・8％、14万人に及ぶ「日本復帰嘆願署名録」は窮乏のどん底からの血の叫びであり、多くの人々を感動させるものがありました。

昭和26年5月、くだんの嘆願署名録が奄美から波涛を超えて横浜港に着くや、神奈川の諸先輩は瀬田先生のご自宅で今後の対策を討議。すぐさま署名録を携え、政府、国会、連合軍、司令部、対日理事会、米国政府首脳等へ幾度も請願陳情を行ったのです。

この署名録の存在、そしてあらゆる機関に働きかけた諸先輩のご尽力により、一大復帰運動はその実力をおおいに発揮し、その後の沖縄、小笠原の復帰へのたしかな轍（わだち）ともなりました。

★勤労青少年激励大会で奄美の若者にエール

復帰運動のさなかには、奄美を離れ密行の形で横浜にたどりついた人々もたくさんいました。神奈川在住の諸先輩は、そうした方々の新生活の基盤づくりを支援するなど、さまざまな形で故郷の人々を救って下さいました。

昭和30年代以降の高度経済成長期には、奄美の青少年たちが集団就職で横浜、東京のあらゆる成長産業に従事するようになりました。彼らが故郷を離れ寂しい思いをしているのではないか。そんな思いが契機となり、神奈川奄美会で主催したのが「勤労青少年激励大会」です。

この会は神奈川県の支援もあって10年間続き、参加した若者の中には後に「現代の名工」に選出されるほどの技術者に成長した方もいます。瀬田先生は平成18年、101歳でご逝去されましたが、生涯を通じて故郷・奄美と奄美の人々を見守り続けて下さいました。

神奈川奄美会はこうした諸先輩のご尽力により歴史を刻み、現会長の西元壮一郎氏はじめ事務局の皆さんが中心となり独自の伝統を引き継いで下さっています。自分たちが異郷の地で幸せになることで、逆説的に言えば故郷の島が栄えるとの信条を会員の誰もが胸中に抱いている。それが現在の神奈川奄美会といえるのではないでしょうか。

湘南病院のお弁当。健康管理が一番大事です。

神奈川奄美会

神奈川奄美会スローガン

昭和 21 年に発足し 69 年。出身者の親睦交流と、郷土奄美と神奈川との交流の懸け橋を深め、シマに対する問題を皆で学習し考え、思いの拠り所として活動しています。

・会長　　西元壮一郎　三浦市南下浦町金田 22-5　TEL.046-888-4306
・幹事長　山下
・事務局長　林

ホームページなし・Facebook なし

奄美群島日本復帰50周年記念　明日をつなぐ　再録①　発行：東京奄美会

平成15年（2003）11月16日、名瀬市・奄美振興会館にて開催された『奄美群島日本復帰50周年記念式典』において、田中達三さんが東京奄美会会長として述べられた祝辞と、東京奄美会により発刊された記念誌『明日へつなぐ』に寄せた文章をここに再録。
（東京奄美会刊『明日へつなぐ ～奄美群島日本復帰五十周年記念～』より引用）

不滅の日本復帰嘆願署名録が訴えたもの

東京奄美会会長　田中達三

本日ここに多くの来賓のご臨席を頂き、ご参列の皆様とともに奄美群島日本復帰五十周年記念式典と文化祭を開催できましたことに主催者を代表いたしまして心から御礼申し上げます。

愛郷と愛国の心に燃え、熾烈な復帰運動を行い、悲願とも言われた郷土の日本復帰を果たした私達奄美同胞は、年を経るごとに日本復帰を記念する国家的、国民的な慶祝行事を待ち望んでおりましたところ、来る十一月十六日に、名瀬市において、天皇、皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、名実ともに盛大な奄美群島日本復帰五十周年記念式典が開催されることになりました。この有り難く、感慨深い式典のご盛会をご参列の皆様と共に謹んでご祈念申し上げる次第であります。

復帰運動の歴史を顧みますと、講和条約調印の昭和二十六年を前後に、条約に定められていた信託統治に断固反対し、祖国復帰を貫徹すべく群島内外の同胞は一致結束して決起し、熾烈な復帰運動をしたのであります。

群島にあっては祖国日本復帰嘆願の署名、断食祈願の決行、決起大会が幾度も繰り返され、本土におきましてはこれに呼応して街頭署名運動や国民敵総決起集会などが開かれ、広く国の内外の世論に訴えたのであります。

なかでも群島在住満十四歳以上の九十九・八パーセント、十四万人に及ぶ日本復帰嘆願署名録が訴えたものは窮乏のどん底からの地の叫びであり、或は自由と天賦の人権の主張でもあり、波涛を乗り越えてきた嘆願署名録の声なき声が訴える説得力は多くの人々を感動させるものがありました。

昭和二十六年五月十三日にこの署名録に接した諸先輩は、その翌々日から感激も新たにこの署名録を携え、政府、国会、連合軍、司令部、対日理事会、米国政府首脳等へ幾度も請願陳情を行ったのであります。請願陳情の論拠と願意は、奄美の島々に残る風俗、習慣、言語、シマ唄などに有史以前から日本文化のたどってきた道と姿があり、一体として国のかたちをなしてきた奄美の島々の復帰を強く訴えるものでありました。

奄美群島の復帰は、今日的課題ともなっている我が国の領土の主権と排他的経済水域を平和的に確保したことであり、その後の沖縄、小笠原の復帰への道を開いたことにもつながるものとなったのであります。

戦争に敗れ、国家意識も低く、領土である島嶼の帰趨にも関心が薄かった戦後のこの時代に、奄美同胞の愛郷と愛国の心が多くの国民に衝撃と感動を与えたことも意義深いものがあったと思う次第であります。

戦後の奄美群島の荒廃と窮乏のくらしを知る人々にとりまして今日の姿は隔世の感がありますが、これは半世紀にわたって群島振興の特別措置法による国家的支援と鹿児島県の積極的な施策によるものであり、ここに衷心より感謝申し上げる次第であります。また営々と努力され今日の姿を築き上げた市町村当局と住民の皆様に対しましても心から敬意を表してやみません。

鹿児島県は本年三月に奄美群島振興開発総合調査報告書を発表されましたが、そのなかで郡民所得水準がなお低く、社会資本の整備も立ち遅れていることなどから、群島の自律的発展に向けた特別措置法の必要性と今後の課題と開発の方向などを明示されております。

時宜を得たこの提言に感謝申し上げますとともに、本年度をもって時限となる奄振法の発展的延伸とこれに基づく施策の充実によりまして、群島の自立的発展が促進されますことを強く期待し要望申し上げる次第であります。また群島市町村におきましては、自立振興の主体として中長期的な展望に立った体制の充実を期待するものであります。

私達は本日ここにあらためて復帰運動に尽力され愛郷と愛国に生き、世のためにつくされた人々に心から感謝申し上げますとともに、復帰運動の意義を尋ねることで今日の私たちの生き方を学び、また、後代につなげたいと存ずる次第であります。

本日は後半、奄美を語る講演と島唄の祭典もありますが、どうぞ皆様のお心にふれる大切なものをお持ち帰りになることを願ってやまない次第であります。

終わりになりますが、ご列席の皆様のご健勝と御多幸を心から祈念申し上げますとともに、本日の式典と文化祭を支え盛り上げて下さる皆様に対し、心から御礼を申し上げて私の式辞といたします。

再録②

記念誌発刊に当たって

平成十五年は奄美群島が日本復帰してから五十周年に当たる年でありましたので、東京にあるシマごとの郷友会はそれぞれに出身者が参加して、記念のお祝い行事などを開催しました。

東京奄美会は奄美群島広域事務組合の共催、国土交通省、鹿児島県、東京都など多くの団体の後援、協賛、協力を頂いて、十一月九日渋谷公会堂で二千三百余名もの会員の参加と多くの来賓の御参列を頂き、郷土からは島ごとのシマ唄の先生方の出演もあって、盛大な記念式典と文化祭を開催することができました。

引き続いて十一月十六日には、名瀬市で奄美群島日本復帰五十周年記念事業実行委員会主催によりまして、天皇陛下、皇后陛下をお迎えして、歴史的な記念式典が盛大に開催されました。私は東京奄美会会長として群島の外に居住する奄美出身者を代表して、祝辞を申し上げましたが、昼時NHKで全国に東京奄美会の名が放映されたのであります。

この式典の前日十一月十五日の夜、両陛下とご懇談ができる記念祝賀会があり、参列者は両陛下の御前で一人ひとり御礼のごあいさつを申し上げました。天皇陛下が私の「東京奄美会会長」の名札をちょっと身をかがめてご覧になりましたので、私は東京奄美会のことを次のように申し上げたのです。

「東京奄美会は、奄美の島々から出てきた首都圏で暮らす人々が、お互いに励まし合い、助け合い、郷土に何かあれば応援しなければという志を持った人々の団体であります」と。

陛下はやさしい微笑みで幾度もうなずいて下さいました。まことに申し訳ないことですが、私はその親しみ深いお姿に思わず手をさしのべ握手したい衝動にかられ、ジーンとくるものがありました。

私はかねて東京奄美会を「妙なる」もの、即ちなんとも言えないほど優れている会と自分なりに思っておりましたので、更にこの思いを深くした次第であります。会員の皆さんが東京奄美会の名を誇りにしてほしいと願ってやまない次第です。

この尊い思い出を後世に残すべく、東京や奄美での「奄美群島日本復帰五十周年記念式典」等の内容を記録にとどめるとともに、改めて五十年前の復帰運動の流れをひも解き、そして復帰当時やその後の五十年間を振り返りつつ、奄美の将来への展望や提言等について、会員をはじめとして多くの方々からご寄稿いただき、これらを記念誌としてまとめました。このささやかな記録が力強い奄美の将来へつながるようにとの思いを込めて、タイトルを「明日へつなぐ」と名づけました。

この記念誌が現代の私達の備忘のみならず、後代の人々に東京奄美会歴史の証言として役立つものであれば、編集に汗を流した諸兄姉にとりましても大変うれしいことと思います。

平成十六年七月吉日

天皇陛下より御製（ぎょせい）のお歌と皇后陛下御歌（みうた）「日本復帰五十周年を迎えし奄美にて」と、式典にご出席になった翌朝、土盛海岸におでましになり、日の出をご覧になった折の御歌が書かれています。

2,300 人収容の渋谷公会堂は 1 階・2 階まで超満員

東京奄美会

スローガン

～島興し～ふるさと奄美の力になろう

東京奄美会は、奄美の島々から出てきて首都圏で暮らす人々がお互いに励ましあい、助け合い、郷土の発展に積極的に役立ちたいという志を持った人々の集まりです。13の郷友会の連合体であり、文化広報部会、青年部会、女性部会を設置し、それぞれ積極的な活動をしており、明治37年の設立以降、今日まで継続してきました。

女性陣は奄美大島紬を着て、新年のご挨拶

会　長　森　眞一
幹事長　花岡 正美
〒286-0201　千葉県富里市日吉台4-18-12
☎090-3552 -4834　出身地　笠利町佐仁
事務局長　中濱 寛
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山3-14-17

東京奄美会の経歴

明治37年（1904）	1月	正式の団体を結成。名称を「在京大島郡青年会」とする
大正 9年（1920）	1月	総会にて「大島郡青年奨学会」設立を決議
昭和 4年（1939）	11月	総会にて会の名称を「東京奄美会」と改称
21年（1946）	12月	「全国奄美連合総本部」及び「奄美連合東京本部」を結成
		復帰運動に本格的に取組む
38年(1963)	11月	中央大学講堂で奄美群島復帰10周年記念祝賀会・芸能祭
平成 5年（1993）	6月	お茶の水湯島聖堂「斯文会館」で奄美文化フォーラム第1回講座開講
9年（1997）	6月	目黒さつき会館にて「青年部」立上げ
10年（1998）	11月	東京国際フォーラムで東京奄美会創立100周年記念大会
19年（2007）	6月	豊島公会堂で第1回奄美フェスタ開催（青年部設立10周年記念）
21年（2009）	10月	目黒さつき会館で東京奄美会女性部創立15周年記念総会。
22年（2010）	11月	奄美豪雨災害義援街頭募金：於／池袋・新宿・渋谷・東京・上野駅頭
25年（2013）	10月	渋谷公会堂で奄美群島日本復帰60周年記念式典

唄者の大和君

奄美市東京事務所所長
松原昇司さん

ホームページ http://www.tokyo-amamikai.com/・Facebook なし

私の履歴書

会長 森 眞一

出身地：沖永良部島　和泊町畦布
生年月日：昭和 17 年 8 月 20 日（満 72 歳）
現住所：千葉県四街道市和良比 256-215
e-mail：mori.shinichi.@beige.plala.or.jp
TEL&FAX：043-433-2288
出身校：和泊町立和泊小学校→
和泊町立和泊中学校→
鹿児島県立沖永良部高等学校→
立正大学経済学部

★生まれたシマに対する思い

学ぶことの大事さを老いるごとに実感しています。学ぶことへの私の思いは、次のような環境において育まれたと思っています。

かまどの火で新聞の端切れ（買い物の包み紙）を読む母の姿、「勉強ができれば東京の叔父さんが待ってるよ」と口癖のように励ましてくれた両親、世界の偉人・西郷隆盛の上陸地、伊延港の身近な存在、小学校の行き帰りに通った西郷南州神社、南州橋、小学校校歌の「黒潮洗う磯の辺に、偉人の垂れし、道教え」の一節――。貧乏ながらも本当に良い環境に育ち、向上心を植えつけられました。

近隣の皆さんの温かい目、よき先輩、後輩もまた人生の師であり、忘れられない存在です。第二の人生を含め、社会に貢献できたと自負できるのは、沖永良部で授かった素養がベースであると感謝しております。

★シマの財産とは？伝えていきたいこと

生まれ育った沖永良部、和泊町が志向し、実践して来た教育の充実、すなわち「人つくり」の源流は、文久年間、流人や遠島人とも言われた川口雪篷、西郷隆盛翁であると考えますが、1年半余の牢生活にありながら、「敬天愛人」の思想を打ちたて、心ある若者を教え導いた西郷さん、早魃（かんばつ）時に備える「社倉」の構想は“相互扶助”“結い”の精神を島民に植え付けております。

その遺訓を受け入れ、後世に脈々と伝えてきた島の先人達に敬意と感謝の念が沸いてきます。いつまでも語り伝えられ、形として残して行くべきでしょう。

★日本復帰への思いや、活動された取り組みなど

小学校低学年のころ、学区内の海岸沿いの石ころの小道を「なんで　かえさぬ、えらぶ　と　よろん、おなじはらから　あまみしま」と、声高らかに歌いながら旗行列をした。それが記憶する唯一の私の復帰運動です。

その後、学生生活で学ぶ中で、また社会人として先輩たちと交友し苦労話などを聞く中で、純粋で一途な民族意識の高さ、強い団結心を持って、悲願の祖国復帰を実現した事実を知り感動し、敬意を表し、感謝してきました。

★私の成功への哲学

「何事も使命感を持って、事を為そう」

この言葉は、私にとっては「自分に与えられた仕事は誠心・誠意、責任を持ってやり遂げよ」という意味であり、過去のさまざまな経験から生まれた心情です。

たとえば、就職間もない検疫所時代は常に上司が引き立ててくれ、「もっと都会で勉強しろ」と転勤を推薦してくれました。その言葉に支えられ2年間隔で転勤でき、満足する職場で悔いのない仕事ができました。

また厚生労働省、環境省、日本精神科病院協会、日本リウマチ財団では医師、看護師等、医療関係者との協働を経験し、仕事を誠実に実行する中で良い人間関係を構築することもできました。

「労働が人間を教育する」という言葉がありますが、職場において異職種の皆さんと対等に、臆することなく、歯車として機能できたのは、仕事の中に学ぶ努力をしたからではないかと思う今日この頃です。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

自分の環境を悲観せず、おごらず、裸一貫、自分の道は自分で開くんだとの気概を持って、真一文字に進みましょう。

あなたが育った町には何か誇れるものがあるはずです。その知識を持ってください。その知識があなたの自信となり、他郷の人に対し卑屈にならず、自分は田舎者と思わなくて済みます。

和泊町では、和泊町歴史民俗博物館、西郷南洲記念館が有名ですね。あなたが日々通る道端にも史跡があるのではないですか。島を離れる前に振り返って見ましょう。自分の国を自慢し、相手のお国自慢を受け容れることで、良い人間関係が築けるでしょう。

★シマを出てからこれまで

昭和 36 年 3 月　厚生省鹿児島検疫所与論出張所
38 年 12 月　同・名瀬支所
43 年 6 月　同・東京検疫所
48 年 8 月　同・環境衛生局　水道課
51 年 6 月　同・公衆衛生局　保健情報課、結核成人病課
55 年 6 月　環境庁環境保健部特殊疾病対策室
57 年 4 月　厚生省水道環境部水道整備課
59 年 4 月　環境庁大気保全局企画課
61 年 4 月　厚生省生活衛生局食品保健課　書記
平成 元年 4 月　同・保健医療局　公衆衛生監査官
3 年 4 月　同・生活衛生局　生活化学安全対策室、指導課
6 年 4 月　同・保健医療局エイズ結核感染症課、精神保健課社会復帰対策指導官
10 年 4 月　厚生省成田空港検疫所次長
12 年 4 月　社団法人　日本精神科病院協会　事務局長
19 年 4 月　公益財団法人　日本リウマチ財団　専務理事（26 年 6 月退職）

（その他）
平成 26 年 11 月　東京奄美会　会長　就任
東京沖洲会　副会長
元・関東沖永良部高等学校同窓会　会長
元・東京和泊校区交友会　会長
元・東京湾門会　会長

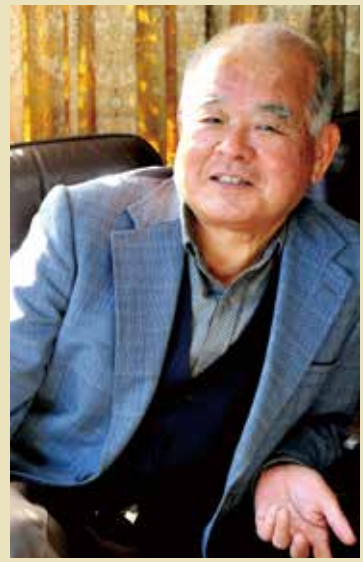
埼玉奄美会

スローガン

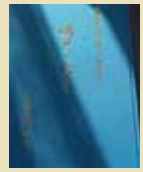
奄美群島の景勝地、伝統行事および温暖な気候を活かした農作物、果樹等、群島（五島）の自然環境を観光資源に有効に活かす情報発信を積極的に行うこと

私の履歴書

会長 松村 久



出身地：徳之島
生年月日：昭和 14 年 12 月 20 日（満 75 歳）
現住所：埼玉県川口市東川口 4-30-35
TEL & FAX：048-295-7767
出身校：鹿児島県立市来農芸高等学校→東京農業大学



★埼玉奄美会が誕生した経緯と想い

埼玉県在住の奄美出身者情報交換の場および親睦を深め、さらには故郷奄美を愛する話題、お互いの生まれ育った「島」の話題を提供する場とする。

★シマを出てからこれまで

昭和21年、小学校に入学しましたが、義務教育初期の基礎的知識を学ぶ重要な時期に、閉鎖的な占領時代で生活・教育環境、指導者等不足で大変困難な8年間でした。昭和28年に奄美群島復帰によって、学校施設の充実、教育内容の改善等で生活環境、教育環境が改善され、生活や教育等の活動範囲が広域になりました。昭和30年4月に奄美の近代農業を目指して市来農芸高校に学びましたが、農業生産物が過剰で、これからは住みよい緑豊かな街づくりの時代と考えたことから都市計画に興味を持つようになり、東京農業大学農学部造園学科に入学。公園、街路、造園等を学び、昭和37年に卒業しました。

学んだ専門知識造園を活かすべく公共事業のできる公務員を希望して、埼玉県川口市役所に昭和37年4月に就職しました。

★生まれたシマに対する思い

自然環境に恵まれた、温暖気候の島で生まれたことが自慢です。島のために、これからも私にできることがあったら協力したいと思います。

★シマの財産とは？伝えていきたいこと

山、海、農地、川が調和した自然と、心豊かな人情です。温暖な気候を活かした農作物、果樹園芸、花卉園芸生産などを観光資源として人々に伝えていきたい。

★私の成功への哲学

鹿児島、東京で学び、埼玉県に就職してからは地域、環境、生活習慣等を学んだ。そして人々との情報や意見交換等の経験を活かし、市の行政都市計画である緑豊かな街づくりの企画立案をし、実施計画、事業に参画。専門知識が発揮できる職場で36年間、これらの事業すべてに携わることができた。1964年には東京オリンピックも開催され、高度成長時代と共に多数の人々と出会ったことがよかったと思います。

★日本復帰への想いや、活動された取組みなど

小学校、中学校時代は生活困難で、自給自足生活で勉強より家族全員での農産物生産が日課でした。

日本復帰後は復興事業の環境、生活、教育関連事業等が盛んになり、島の人々に生活、教育等に対して意欲が出て、島全体が明るくなりました。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

自然豊かで温暖な環境と人情味ある島の人々に育まれている君達は、都会から見れば何とうらやましいことでしょう。島から離れると島の良さがとてもよく分かります。島の宝です。今は自分の仕事（勉強）を頑張って力をつけること、そして人々を大切に思う心を持ち、いろいろな経験を積み重ねて、将来自分がどうしようか、前を向いて進んで欲しい。

埼玉奄美会の経歴

埼玉奄美会として活動する以前は、埼玉県在住の奄美出身者の親睦を目的として

1. 一重、一瓶を持ちあって、飲み、食べて楽しい一日を過ごすこと
2. 焼肉パーティー（公園）いっぱい
3. ゴルフ大会していっぱい

お互いに飲んだり、食べたり楽しく過ごすことが出身者の拠り所となっていました。

○年会イベント
・2015 年の総会は第 40 回
・年 1 回総会 8 月後半
・ゴルフ大会年 1、2 回

幹事長　里村哲生
出身地　天城

ホームページなし・Facebook なし

中部奄美会

スローガン

故郷との懸け橋

省みますれば故郷奄美を後に内地の津々浦々にやって来て、そしてこの中部地区に安住を求め各分野で活躍しておられる数多くの出身者がおられます。

奄美の同胞が一堂に会する場をつくり「絆」を深めようと準備委員会を結成し、平成12年（西暦2000年）に「第一回中部奄美会」を開催しました。

平成17年には愛知万博・中部国際空港・第二東名高速道路の拠点等、日本の中心地として発展して参ります。少子高齢化社会、情報通信改革化と二段と厳しくなる世の中で、私達は郷土意識に燃え関東奄美会の伝統を見習い、老若男女参画でこの会を発展したいと思います。

《故郷は遠きに在りて思うものなり》すばらしい故郷です。美しい伝統芸能や文化を後世に伝えて行かなければなりません。この中部奄美会がその一助となれば幸いです。

中部奄美会　名誉会長・顧問
寺師一蔵氏

奄美フェスティバル

私の履歴書

会長 南 典憲

出身地：奄美大島　笠利町川上
生年月日：昭和 23 年 4 月 13 日（満 67 歳）
現住所：名古屋市緑区大清水 1-1412
e-mail：mimami_amami@yahoo.co.jp
TEL：090-3554-6892
FAX：052-823-7374
出身校：屋仁小学校→赤木名中学校→鹿児島実業高等学校

★シマを出てからこれまで

昭和37年鹿児島実業に入学。鹿児島弁に苦しみながら昭和42年卒業、名古屋鉄道に就職し、昭和45年に名鉄の先輩有志らでボウリング場を立ち上げ、ボウリングブームも去った。昭和49年にボウリング場に居た先輩達が立ち上げた建築会社に就職し7年間修行、55年独立ミナミ店装を創業、平成元年㈲ミナミ店装設立、主に店舗の改装工事、住宅リフォーム工事を行っている。

★生まれたシマに対する思い

集落の皆んなが家族で結いの心の中で育ち、自然の中で生活して来て今の自分が有り、一人間として成長させたすばらしいシマ。感謝感謝。

★シマの財産とは？

伝えていきたいこと

手つかずの豊かな自然、人情味あふれたもてなしの心。島唄などの奄美の伝統文化。

★私の成功への哲学

不撓不屈、誠実、相手の立場になって行動をする。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

何事にも挫けず一生懸命で、良い友達を沢山つくること。

中部奄美会の経歴

歴代会長

第 1 回	2000 年	中部奄美会創立 寺師一蔵
第 2 回	2001 年	寺師一蔵
第 3 回	2002 年	寺師一蔵
第 4 回	2003 年	寺師一蔵
第 5 回	2004 年	寺師一蔵　※奄美で総会開催
第 6 回	2005 年	寺師一蔵
第 7 回	2006 年	寺師一蔵
第 8 回	2007 年	寺師一蔵
第 9 回	2008 年	寺師一蔵
第 10 回	2009 年	寺師一蔵　※ 10 周年記念総会
第 11 回	2010 年	栄 健三
第 12 回	2011 年	栄 健三
第 13 回	2012 年	栄 健三
第 14 回	2013 年	奥田新一
第 15 回	2014 年	奥田新一　※ 15 周年記念総会

新年会

会 長　南　典憲
幹事長　仁村　保郎
〒471-0066　豊田市栄町四丁目 2-19
☎ 090-3552 -4834　出身地　笠利町左仁
事務局長（書記、会計）　西　達成
〒478-0052　知多市八幡新町二丁目 1-40 エスケート早川 202
☎ 090-8961-5381　出身地　笠利町須野

◆恒例のゴルフイベント

2015 年ゴルフイベントについて、今年は国民文化祭の関係で市民体育祭が 15 日となることから、11 月 14 日（土曜日）開催予定です。昨年は名古屋からチャーター便で６０名参加するなど、奄美と中部、出身者やファンとの交流多数参加の予定です。　担当：森　克事

ホームページ http://www.e-erabu.net/amamikai/・Facebook なし

関西奄美会

スローガン

会員相互の親睦融和と共栄を図り、併せて郷土の振興発展に寄与する事を目的とする

★関西奄美会とは

関西奄美会は、関西在住の奄美出身者および、その縁故者を会員とし、奄美群島12市町村の全ての会をもって組織されています。喜界島、北大島、南大島、徳之島、沖与（沖永良部島、与論島）の5地区、計16団体からなり、会の運営はこの5地区が輪番で担当しています。

【関西奄美会5地区　傘下16団体】

喜界地区　関西喜界町郷土会

北大島地区　近畿笠利会、関西名瀬連合会、関西住用会、関西龍郷会、関西大和大棚校区会

南大島地区　関西宇検村会、関西瀬戸内会

徳州地区　関西徳州会、関西徳之島町郷土会、徳之島町関西東天城連合会、関西天城町連合会、関西伊仙町連合会

沖与地区　尼崎沖洲会、大阪沖洲会、

関西与論会

当会は、大正5年に「大阪大島郡人会」として発足し、世相とともに組織名の変更などを行いながら昭和20年の終戦まで存続してきました。

戦後は本土にある全国の奄美会と連携し、早期の奄美群島祖国復帰を求めて活動。昭和28年に祖国復帰を果たした後は、会員の親睦融和と共栄を図り、郷土の振興発展に寄与することを目的として、郷土と共に、関西在住16市町村郷友会団体の活動および関係団体の行事など、さまざまな活動を展開しています。

今後とも、「故郷奄美の夢の架け橋」となるべく、会の存続・発展に努めてまいる所存です。

関西奄美会新年互礼会は、本年も盛大に開催され、皆で郷土を育みました

関西奄美会の経歴

大正 5 年10 月	関西奄美会のルーツ、大阪大島郡人会が「同胞を網羅し」設立総会
15 年 9 月	奄美大島で暴風雨のため死者・不明 146 人
11 月	関西大島郡人会は大阪で慈善興業を催し、義援金 3,400 円を送金
昭和 21 年 2 月	敗戦で奄美・沖縄が本土から分離
26 年 7 月	祖国復帰を求め雨の中、大阪府立大手前会館で 4 万人の総決起大会
28 年 8 月	ダレス米国務長官が奄美返還を声明。 大手前会館で感謝祝賀会「泣いて祝う 4 万」（12 月に復帰）
33 年 11 月	武庫川河川敷で大運動会（毎年恒例となる）
44 年 3 月	奄美と阪神を結ぶ定期航路のサービス改善運動（49 年 8 月まで）
50 年 9 月	徳之島から闘牛 16 頭を神戸丸で運び神戸の須磨浦海浜公園で闘牛大会
平成 7 年 8 月	尼崎市産業郷土会館、周辺公園で「キバランバ・関西」開催
15 年 10 月	復帰 50 周年で御堂筋パレードに参加
22 年 12 月	北大島豪雨被災義援金 10,760,605 円送金
23 年 11 月	東日本大震災義援金 593,000 円送金
26 年 3 月	大島高等学校選抜 21 世紀枠出場応援

執行部

会長　栄　俊彦（近畿笠利会）
幹事長　久保秀基（関西名瀬連合会）
事務局長　山田只一郎（関西名瀬連合会）
女性部長　内田サユミ（関西名瀬連合会）

◆今後のイベント

平成 27 年 4 月 12 日　第 98 回総会並びに芸能大会

ホームページ http://www.kansai-amamikai.jpn.org・Facebook 関西奄美会

私の履歴書

会長 栄 俊彦

出身地：奄美大島　笠利町須野
生年月日：昭和 20 年 1 月 24 日(70 歳)
現住所：〒551―0012
大阪市大正区平尾 2 － 23 － 17 － 207
e-mail：69262124tosihiko @ gmail.com
TEL& FAX：06 － 6554 － 3515
出身校：笠利小学校→笠利中学校→大島高等学校

★関西奄美会での取組み

北大島地区執行部発足以降の活動をご報告いたします。

【会員相互の親睦融和・共栄のために】

関西奄美会の第一の目的は、会員相互の親睦融和と共栄を図ることです。平成26年（2014）には、当会を構成する16郷友会の各会が開催する総会に出席いたしました。各会ともすばらしい歴史と伝統を誇り、大運動会、芸能大会、敬老大会、懇親会を兼ねて盛大に開催されました。

また平成27年には当会主催により1月11日に関西奄美会新年互礼会を開催、4月12日には第98回関西奄美会総会並びに芸能大会も、16郷友会のご協力を頂きながら盛大に開催することができました。

【郷土の振興発展のために】

当会の第二の目的は、郷土の振興発展に寄与することです。このためには郷土の現況把握が重要であり、平成26年6月20～28日、久保秀基幹事長、内田サユミ女性部長の3名で奄美群島12市町村、関係団体を表敬訪問致しました。

また、平成27年1月31日～2月4日にも、役員2名とともに喜界町、笠利町、龍郷町、瀬戸内町、宇検村等の行政機関を表敬訪問致しました。これら表敬訪問では市町村長、幹部職員の皆様方とも意見交換でき、大きな成果がありました。

これからも郷里の関係団体との連携を深め、奄美群島成長戦略ビジョンの実現に協力して郷土の振興発展のため努力いたします。

【各種イベントへの協力・参加】

平成26年10月4～5日、豊中市・せんちゅうパル南広場（千里中央駅）で開催された『第1回奄美の観光と物産展in大阪』では、奄美物産販売、お楽しみ大抽選会、奄美群島のシマ唄芸能祭などを実施し、ご好評をいただきました。

また、27年3月7～8日の『大阪国際空港就航都市物産展』に奄美市が参加。当会も女性部が踊りで応援しました。

★生まれたシマに対する思い

稲作や砂糖キビ栽培の盛んな昭和20～30代に、18歳まで笠利町須野で過ごしました。小学生、中学生時代は年中農作業、牛の餌にする草刈り、薪取り、海や川での魚釣りと恵まれた自然環境の中で先輩、後輩と一緒に遊ぶなど、楽しい思い出が多いです。

★シマの財産とは？

伝えていきたいこと

奄美・琉球と同緯度の所はほとんど砂漠地帯だといわれています。

故郷の恵まれた自然環境と先祖の生活の中で育まれた食、言葉、祭り、民謡、踊り、大島紬等の伝統産業を大切にしましょう。

★夢を実現するには

大きな夢を持って、努力を続ければ夢は必ず実現する。仕事、交際、読書などで正しい生き方をして下さい。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

大きな夢を実現するため、人間として一番大切なことを見聞き体験して元気で頑張りましょう。奄美出身を誇りとして生きよう。

★シマを出てからこれまで

昭和 38 年（1963）4 月　大阪市都島区役所、朝日区役所アルバイト
　39 年（1964）4 月　大阪市役所に奉職
平成 17 年（2005）3 月　大阪市役所退職
　17 年（2005）4 月（財）大阪市公園協会就職
　21 年（2009）3 月（財）大阪市公園協会退職

※昭和 38 年（1963）10 月開催の近畿笠利会総会に参加してから先輩方のご指導を受けて参りました。

関西奄美会の歌

作詞　福岡正信
作曲　徳山博良

一、砂浜白く　海青き
　サンゴの島の　はらからが
　夢もふくらむ　歌ごえは
　われ等　関西奄美会

二、遠きふる里　偲びつつ
　つとめひと筋　打ち込みて
　島の栄えの　一翼を
　担う　関西奄美会

三、集いたのしく　腕を組み
　握る手と手に　血が通う
　堅くこころの　輪を結び
　伸びる　関西奄美会

四、郷土奄美に　捧げたる
　燃える情熱　承けつぎて
　島の誇りを　高らかに
　歌う　関西奄美会

★ PC、スマートフォンで聴く Youtube『関西奄美会の歌』
https://www.youtube.com/watch?v=dAZLsDOp9lQ

神戸奄美会

スローガン

地元（神戸市民）にも奄美の魅力を伝える

●神戸奄美会が誕生した経緯と想い

航空路の無い時代。奄美の島々から関西へと向かった客船は、神戸港中突堤（神戸の中心部）へと入港した。そのため神戸は多くの奄美出身者が住む。神戸市では最大のまつり（観客100万人、5月開催）である「神戸まつり」には「神戸奄美会」として参加、南国の魅力を発信している。年1回総会・芸能大会を開催（500人規模）。平成6年から神戸奄美会館を所有、活動拠点としている。

●神戸奄美会が大切にしていること

地元の人達（神戸市民）に奄美の魅力を伝えるのも郷土員の役割のひとつ神戸まつりには20数年間連続で参加。今年は約70人の女性部員たちが大島紬姿で「島のブルース」（三沢あけみ）を踊った。

神戸奄美会館の発展的維持運営会館の発展的維持運営には経費がかかるが、今後とも会員交流の場として維持管理を図っていく。

全国の郷友会中でも唯一、会館がある神戸奄美会

前会長中井氏と新会長南氏の団結力に今後も大きな期待が寄せられる

神戸奄美会の経歴

昭和　6年（1931）　5月	神戸奄美連合会（または大島郡人会と称す）結成
昭和 28 年（1953）　3月	神戸奄美連合会を「神戸奄美会」と改称する
昭和 55 年（1980）11 月	神戸奄美会創立 50 周年記念大会開催
平成 6 年（1994）2 月 27 日	神戸奄美会館竣工祝賀会開催
平成 7 年（1995）3 月 19 日	阪神淡路大震災犠牲者（死者 146 人）慰霊祭開く
平成 20 年（2008）11 月	法律改正により会館の名称が「一般財団法人神戸奄美会館」になる
平成 25 年 8 月 18 日	会館設立 20 周年記念「文化芸能発表会」を開く

会長　南敬一郎
〒674-0083　明石市魚住町住吉 3-1295-10
☎ 078-947-7511　mobile: 090-9719-7110
出身地：鹿児島県沖永良部島　知名町住吉
幹事長　池田純厚
〒655-0048　神戸市垂水区西舞子 9-16-19
☎ 078-783-5478　mobile:090-4562-1054
会計部長　福田正晴
〒658-0014　神戸市東灘区北青木 3-8-22-1
☎ 090-3843-8037（要確認！）
女性部長　宮田和枝
〒657-0837　神戸市灘区原田通 3-3-2
☎ 078-871-8925

ホームページなし・Facebook なし

私の履歴書

前会長 中井和久

出身地：奄美大島　名瀬古田町
生年月日：昭和 21 年 11 月3日（満 68 歳）
現住所：兵庫県神戸市垂水区山手 4-4-24
TEL&FAX：078-751-4208
Mobile：080-3133-5101
出身校：鹿児島県立大島高等学校→北九州市立大学

★シマを出てからこれまで

昭和45年に北九州市立大学文学部を卒業後、神戸新聞社に記者として入社。編集局社会部、東京支社、姫路支社、阪神総局などで事件・事故、政治、行政などを担当。最終ポストは神戸新聞阪神総局長（5年半前に退職）。

大学に入学したころは「奄美との関係は切れた」と思ったが、昭和45年神戸に来てからは、私の古里観が一変した。取材で会う人、会う人、奄美群島や鹿児島県出身者の多いこと。記者生活を続けるにつれ「神戸と奄美・鹿児島は密接不可分。これからは奄美にどっぷり浸かりながら仕事をしよう」との考えに切り替えた。

阪神総局長をしながら、平成17年10月～同19年10月は関西名瀬連合会会長、平成20年10月～同22年10月は関西安陵会会長（鹿児島県立大島高校の同窓会組織）を務め、「皆で仲よく」「奄美はひとつ」を合言葉に会の運営に当たってきた。平成24年11月から26年11月までは、全国の奄美会でも古参格に当たる神戸奄美会の会長を致しました。

★これまでの取組み

神戸には「神戸沖洲会館」「神戸奄美会館」という二つの奄美関連の郷土会館がある。このことは、全国の奄美会の中でも特筆すべき事柄である。

先に沖永良部島出身者で建設された「神戸沖洲会館」を手本に、徳之島、本島出身者が建設推進活動を展開。平成6年2月、「神戸奄美むつみセンター」として発足させた。「阪神・淡路大震災」による建物半焼、出身者の熱意、尽力による再稼働を経て、平成13年3月には現在の場所に移転。新たに名称を「神戸奄美会館」とした。会館はシマ唄、踊り、着付けなどの貸し教室としても使われ、奄美だけでなく、沖縄民謡なども教えられていて、さながら南国情報の発信拠点となっている。

神戸奄美会は地域の人たちとの触れ合いを大切にしている。毎年5月に100万人の見物客で賑わう「神戸まつり」には、神戸奄美会創立60周年を迎えた平成2年に初参加。以来、唄や踊りでまつりを盛り上げている。

神戸には様々な県人会や郷土会があるが、実行委員会の審査をクリアしなければ参加できない神戸まつりのパレードに20数年も連続出場しているのは、わが奄美会だけ。「地域密着型」の郷土会を今後とも目指していく。

★二つの震災を通して実感したこと

神戸を語る時、避けて通れないのは、平成7年1月17日未明に兵庫県南部を直撃したあの忌まわしい「阪神・淡路大震災」である。6344人が亡くなった戦後最大の災害となったが、うち奄美出身者は確認されただけでも146人。同3月19日、神戸市中央区、布引中学校講堂において、神戸奄美会主催による合同慰霊祭が行われた。寒々とした講堂に嗚咽が漏れ、自然災害の恐怖に戦（おのの）いた。

震災直後から奄美の各市町村長が、出身の被災者を激励するためにこぞって来神。瓦礫の街を移動されて心のこもる多大な義援金を贈られた。「故郷と私たち出身者は繋がっていた」と、私たちが実感した瞬間だった。

平成22年10月20日、奄美は24時間雨量としては過去最多となる集中豪雨で大きな被害を受けたが、神戸奄美会からは第一次義援金、第二次義援金を奄美市役所へ送金した。せめてものお返しだが、出身者、在住者が「奄美はひとつ」との思いを共有しながら、行動を展開していけば「これからの奄美」の活路が開かれていくような気がする。

★日本復帰への活動

平成25年は奄美群島が米軍政下から逃れ、祖国復帰を果たして「60周年」という節目の年となった。神戸奄美会では、これを記念して、復帰が果たされた昭和28年に大島高校の自治会会長をされていた大勝方興氏（大高4回卒、徳之島出身、神戸市在住、元小学校長）を招き、復帰運動などについて語ってもらった。

昭和28年は小生が名瀬の小学校に入学した年。1年生も短縮授業となり、午後は復帰祈願の「日の丸行列」へ狩り出された。

日の丸行列のことを後輩に語ると「復帰70周年では、若い人たちへの語り部役をして下さい」との言葉が返ってきた。復帰70周年ともなると、復帰を経験した語り部も減る。要請があれば、少年時代のことも語ろうと思っている。何せ、奄美が熱く燃えた時代だから。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

今、私が自身に言い聞かせている人生哲学は「コツコツと努力し、淡々と生きる」。仕事、仕事の人生を歩んで来たので、定年後はスポーツ、カルチャーを満喫し、その成果を高めていきたい。テニス、ボクシング、カラオケ、川柳、スペイン語、中国語。どれも楽しいし、貪欲にすべてをものにしたいと思っている。頭に浮かぶキーワードは高校時代の校是でもある「文武両道」。高校時代を含めた人生というステージで、文武両道に通じるとのスタンスがあれば、理想的な生活が送れると確信する。

若い人たちに言いたいのは、一日一日は平凡な努力の積み重ね。そこの延長線上に目的達成や夢の実現があることを忘れずに邁進して下さい。

広島奄美会

スローガン

会員相互の親睦を図り郷土奄美の発展に寄与すること

●広島奄美会とは

・島口・島唄（民謡）・踊りが「懐かしゃ、哀しゃ」で、生まれ島の雰囲気を味わえる場所。

・奄美群島の情報や話題に一喜一憂しつつ、それを共有すると共に奄美群島出身以外の会員や友好団体に奄美群島を知っていただく場所。

・奄美群島の文化・芸能を奄美2世・3世へと伝承する機会を提供する場所。

※郷土愛を大事にしながら、生活の場である広島で「結の心」を大切にする郷友会。

●日本復帰の取り組み、活動など

（以下、敬称略）

【平成25年（2013）懇親・忘年会】

（1）奄美市から借用した奄美群島復帰60周年記念の旗を会場に掲示。

（2）関西奄美会編集の「奄美群島日本復帰60周年記念映像（DVD）」を放映。

（3）「奄美ファンサミット」・「奄美群島日本復帰60周年記念式典」報告。

（4）奄美群島日本復帰60周年式典で放映されたDVDを放映（奄美群島広域事務組合製作）

（5）「奄美群島日本復帰60周年によせて」と題して、

①8月頃から会員の方（5人）に戦中戦後の体験の聞取りを開始。

②第8回懇親・忘年会で5人の中から、3氏（兒島義夫、永野幹雄、永田てつ子各氏）に復帰当時の想いを熱く語っていただいた。

【平成26年（2014）定期総会】

（1）前年の懇親・忘年会で3氏に語っていただいた内容を部分的に編集して、定期総会の綴じ込み資料とした。（部分編集や「」のタイトルの追記については3氏の了解をいただいた。）

○兒島義夫…「我は海の子」、

○永野幹雄…「あの時の日記」

○永田　てつ子…「中・学生の思い出」

4月9日。設立総会　　来賓の祝辞でスタート！

広島奄美会の経歴

平成18年（2006）	この年の4月9日に創立総会、花見会（参加者19人）からスタートしました。 永田　巌初代会長就任（平成18～23）
20年（2008）	広島県奄美会会則承認（定期総会）、「広島エイサー琉風会」友情出演（忘年会）
22年（2010）	婦人部承認（定期総会）、奄美豪雨災害義援金活動、広島県奄美会の旗製作（2旗）
23年（2011）	森田忠喜二代目会長就任、「牧岡奈美（喜界島出身）」島唄ゲスト出演（定期総会・懇親会）
24年（2012）	「奄美諸島の方言について」（解説は会員の　町 博光、重野裕美）、「澤井毎里子&上地愛美ﾗｲﾌﾞ」 沖縄民謡　（いずれも懇親・忘年会）。
25年（2013）	牧岡奈美（喜界島出身）島唄ゲスト出演（定期総会・懇親会）。 奄美ファンサミット出席（森田）、奄美群島日本復帰60周年記念式典出席（森田）、 広島県奄美会法被お披露目（懇親・忘年会）。
26年（2014）	大島高校甲子園出場寄付金活動、「竿田美也子（沖永良部島出身）」ミニライブ（定期総会・懇親会）

※友好団体：広島沖縄県人会、広島宮崎県人会、広島宮古郷友会

※来年2016年4月に創立10周年を迎えます。

ホームページなし・Facebookなし

私の履歴書

会長 森田忠喜

出身地：奄美大島　龍郷町幾里集落
生年月日：昭和 23 年 9 月 4 日（満 66 歳）
現住所：広島県安芸郡熊野町呉地五丁目 36-16
e-mail：chu-morita@hi3.enjoy.ne.jp
TEL：082-854-7109　090-3554-6892
FAX：082-854-7109

★シマを出てから　これまで

①漁業後継者の育成

シマの各集落では「港湾・漁港」、「道路・河川」の整備・拡張事業が着実に行われています。これらの事業は、島民の生活や陸・海上輸送の充実に重要です。一方、一部の集落は別として、多くの集落では過疎化が進んでいます。事業の中で、漁港に関しては、いずれ「漁港は出来たが漁師がいない」、という状況になるのでは、と危惧しています。私の集落（秋名・幾里）の土地改良事業の二の舞にならないためにも、漁業後継者の育成が急務ではないかと想います。

②学校教育で奄美群島の「歴史」と「経済活動」の学習を。～若者定住のために～

私は「奄美群島の歴史」の学習を通して、苦難の歴史を乗り越えた奄美群島の先人達の生き方を学び、その先人たちを誇りにすべきだと思います。また、奄美群島の経済活動を学習することで、何が奄美群島の島おこしに、つながるかを知ることができると思います。これらを、小・中学校で学習しておけば、島内に自分の生きる道を定める若者が増え、また島を出た若者の中にも所定の目的を達成すれば、島に戻る人が現れるかも知れません、と考えるのは単純でしょうか。

③奄美産の土産物の豊富さに感動

三十数年前のこと、私が帰省した時にシマで買う土産物は数種類しかありませんでした。そこで、広島へ戻る途中の鹿児島で菓子類を買って土産物の穴埋めをしたものです。しかし、昨今のシマでの土産物は品物が豊富で選ぶのに大変です。あの当時に比べて隔世の感がします。紬業がかつての賑わいを失った今、土産物を含めた観光産業に力を注ぐシマの人達の活力・逞しさに感動します。

★夢への成功哲学

私は「夢への成功哲学」を語るほどの人物でありません。ただ、夢の実現へ向けての心構えの一つとして、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の生き方が大事ではないかと思っています。

★今後の取り組み、予定など

①原則的には各島からの会長選出

・各島々の会員の掘り起し、ひいては会の組織拡大につなげたい。

②懇親会において、喜界島から与論島までの5島による「一島一芸」が躍り出るような体制づくり（ムードづくり）

・各島々の幹事・副幹事を中心に要検討。

③副幹事を中心とした「若い人」のグループの結成と活動の支援

・広島県奄美会の将来の基盤作りにつなげたい。

・懇親会で「若い人」の出番を多くする。

④婦人部を中心とした伝統的なシマの食文化や舞踊等を共通話題とした地道な活動

・広島県奄美会の組織力の強化とシマの伝統芸などの次世代への伝承。

⑤懇親会が各島々の芸能を共有し楽しむ場、明日への活力の場となるための創意工夫

・奄美群島の情報伝達（島々の近況報告など）。

・本土音階の民謡（喜界島、奄美大島、徳之島）や琉球音階の民謡（沖永良部島、与論島）の共存共演の演出。

・婦人部を中心とした島の踊りなどに関する地道な練習会の開催。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

シマを出る子どもたちの想いや、その理由は、進学や就職など、各人それぞれだと思います。私自身は、いずれは「シマへ戻る」の気持ちで「シマ」を出ました。しかし、「一時的に……」と思って就職したハズの職場に満足し、いつしか「シマへ戻る」の気持ちは薄らぎました。そして、その後の生活環境の変化もあり、現在は「シマ」へは戻れなくなってしまいました。

私自身の反省からは、「すとごれ!!」の気持ちで、「初心貫徹」を目指して欲しいです。

会長　森田忠喜
☎082-854-7109　出身：奄美大島（龍郷町）
副会長　長田富安
☎0823-34-1014　出身：沖永良部島（和泊町）
事務局長　櫨元幸二
☎082-276-1985　出身：鹿児島県日置市

福岡奄美会

スローガン

奄美の振興を願い、故郷を同じくする者として
お互いを支えあい、励ましあう

●福岡奄美会とは

奄美出身者が一堂に相集い、交友を温め、親睦を深め、奄美を偲ぶために組織され、今日に至っています。現在、正確に住所が把握されていて案内を出している会員は、約６００人。遠くは佐世保や熊本、北九州……からもお見えになります。最近は、若者が福岡の専門学校などへ来る事が多いのですが、その把握には苦慮しております。

会長　佐藤　義敏
福岡県大野城市乙金 1-7-2
幹事　松浦　宣夫
福岡市東区三苫 2-24-18　あまみ長寿庵
顧問　園田　慶一
福岡市中央区平尾１丁目 7-20-206
事務局　　福岡市中央区平尾５丁目 5-30
西日本ビジネス印刷（株）内連絡先
住所：福岡県福岡市中央区平尾5丁目5－30
西日本ビジネス印刷（株）内
☎ 092-531-4757　FAX：092-524-2545

福岡奄美会の経歴

平成13年４月　田中一村展開催協力（福岡市美術館）
14年５月　奄美観光物産展協力（奄美市と共催）
18年８月　奄美物産展と島唄協力（九州国立博物館）
19年５月　徳之島闘牛大会への協力（福岡県筑後市）
21年６月　朝崎郁恵さん福岡公演協力（博多百年蔵）
10月　島唄ライブへの協力（福岡市役所西側広場）
22年８月　大島高校吹奏楽来福応援（福岡サンパレス）
10月　奄美島唄の世界協力
23年１月　奄美豪雨水害義捐金募集
６月　奄美音楽祭協力支援
11月　奄美物産と黒糖焼酎 in 福岡協力
24年１月　加計呂麻島観光物産展協力
25年２月　奄美物産と黒糖焼酎 in 福岡協力
５月　プロ野球スポンサーゲーム応援（ヤフオクドーム）
12月「復帰６０周年奄美群島２１世紀の可能性」
共催（九州国立博物館）
26年１月　奄美物産と黒糖焼酎 in 福岡協力
９月　鹿児島物産展「奄美物産」協力（JR 博多シティ）

ホームページなし・Facebook 福岡県奄美会

私の履歴書

前会長 園田慶一

出身地：奄美大島　大和村名音名音
生年月日：昭和 21 年 12 月 21 日
現住所：福岡県福岡市中央区平尾 1 丁目 7-20-206
e-mail：misterkei0918@n-global.co.jp
TEL：092-521-5195　mobile：090-3412-2569
FAX：092-524-2545
HP：http://www.n-global.co.jp
出身校：名瀬小学校→金久中学校→鹿児島県立大島実業高等学校

★生まれたシマに対する思い

若い頃は島に生まれた事に自分自身でも偏見があり、出身地として奄美大島です!!とは積極的には中々言えなかったものです。ですが、年齢を重ねるにつれ、実社会の厳しさや冷たさ、あるいは家庭や社会活動の中で自ずから奄美の心や血、ＤＮＡが脈々と心身に染み込んでいる事を自覚するものです。人は、誰しも自分の家族や生まれ故郷の事は心の底に横たわっているものです。いつしか、島との接点が目の前に現れた時に、ふと故郷の懐かしさや幼い頃の思い出が突然の彷彿として湧き出してくるものです。島との接点は、各地の奄美会への参加や、島んちゅとの偶然の出会い、また時には、メディアに登場する想い出深い島の風景や風土、民謡や物産かもしれません。

あるいは、日常生活の中で艱難辛苦に襲われたり、心ならずも奈落を経験すると、やはり故郷に想いを馳せたり、親兄弟の姿を思い浮かべ、困難を乗り越えようとする気力や勇気がそこはかとなく湧いてくるものです。

昔は、「故郷は遠くにありて想うもの」でしたが、今ではその気になれば日帰りだってできる近さになってしまいました。でも。島への想いは距離の長短ではなく、心に存在する深さや広さの事である事に気づきます。今では、奄美の生まれだからこそ備え持った人格や性格、思い入れがある事が分ってきました。

★シマの財産とは？伝えていきたいこと

島の財産は、まず一番は自然の豊かさと世界にも類例が無いほどの動植物の固有種の多さではないでしょうか。これからもその保存に全精力を傾注して戴きたいものです。そのための世界自然遺産への登録だと思いますが、決して経済優先の奄美になって欲しくないものです。二つ目は、島唄に代表される民謡や民芸、郷土のお祭りや民舞だと思います。大切にいつまでも残していただきたいものです。都会の喧騒の中で、メディアで垣間見る島唄や六調、八月踊は郷愁の余り涙してしまいます。でも、何と言っても最も大きな財産は、奄美の人々の人柄でしょうね。人や団体のお世話事でも、そこはかとない寛容の心が漂っていたり、人を心底憎む事もしませんし相手の心や想いを斟酌して行動するのもそうかもしれませんね。こんな奄美の貴重な財産は永久に伝えて行かなくてはいけませんし、驕ってはいけませんが自分達がそういう民族である事には誇りを持っていたいものです。

★私の成功哲学

奄美に対する夢ではありませんが、最もそうあって欲しいと思う事があります。それは今の自然がいつまでも大事にされて、島の心を失うことなく、しかも経済的な自立ができるととても嬉しく思います。

今の奄美は、十分に世界に誇れる島であると信じています。

★日本復帰への想いや取組みなど

復帰50周年に際し福岡県奄美会としては「復帰記念例会」等を開催し、ご参加の皆さんと心を一つにして喜びを噛みしめたものです。

また、復帰60周年の折には、奄美での復帰諸行事に福岡県奄美会会長として数度に亘って参加させていただき、島の皆さん、行政の方々と大きな喜びに浸って参りました。その年の年末の福岡県奄美会例会では、「復帰60周年記念例会」として当時の映像やパネルを島から送って頂き懐かしい復帰当時の様子などをつぶさに拝見し多くの参加者が涙したものです。

日本復帰を勝ち取られた奄美の諸先輩が命をも投げ出して勝ちとった日本復帰という栄光、世界的にも存在しない凄い偉業は、いつまでも子供や孫にも語り伝えていかなくてはいけません。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

島の先人達がそうであったように、奄美を後にしても怯むことなく自信を持って羽ばたいて戴きたいと思います。

戦後70年、幾多の奄美の人々が本土へ渡り、学問や仕事、事業に精を出し名をなし功を上げた方々は枚挙に暇はありません。それは、法曹界、政治、行政、医学、実業……全ての分野で顕著な功績を残した方々です。そうでなくても、社会で立派に務めあげた方々、地域や業界団体で十分な足跡を残された方々にも多くの奄美の方々が存在します。勇気をもって、奄美の気概を失うことなく羽ばたいて戴きたいものです。社会は、皆さんの努力や活躍を大きな期待を持って待っています。

自分の思うような結果が残せないときだって、世の中にはあるものです。だからと言って、人生を諦めたり、卑屈になったり、いじけたり、自暴自棄になってはいけません。だってあなたが生きる道は一つではないからです。多くの奄美の先輩たちもあなたと同じように、幾つもの挫折や失敗を繰り返しながら、試行錯誤を重ね努力を継続的に重ねてきた賜物が今なんです。

決して諦めない事、人生は努力の積み重ねですから。奄美のあなた達は、奄美という素晴らしい環境の中で逞しく育って来たのです。その事を常に念頭に置いて頑張って下さいませ。

霧島奄美会

スローガン

会員相互の親睦と融和を図り奄美人としての絆を深めるとともに、ふるさと奄美の発展に寄与する。

●これまでの取り組み
1 新年会・忘年会懇親会
2 花見大会
3 ふるさとアユ祭り
4 地区対抗駅伝（男子・女子）
激励壮行会車両等支援・応援
5 離島先生方の歓送迎に伴う
激励交流会
6 懇親旅行
7 イベント支援・参加等
8 広告協賛

●これからの方向性
1 組織の編成・確立
2 会員の若返り
高齢会員の2世・3世の取り込み
3 ふるさと奄美との連携
現役自衛官（国分自衛隊）との交流強化

霧島奄美会の経歴

昭和 48 年頃　国分の九州学院大学坂元理事長、同じく九州学院大学付属高校東校長、隼人の堅志自動車社長堅志幸一氏等奄美出身 3 名が発案、大学の体育館にて奄美出身者の懇親会を開催

昭和 50 年　国分隼人奄美会発足
　会長　　堅志幸一（住用）/ 会員約 200 人
平成 18 年　霧島市奄美会に名称変更
　会長　　堅志幸一 / 会員約 250 人
平成 24 年　会長勇退に伴う交代
　会　長　　濵畑秀夫（笠利）
　副会長　　久保一元（喜界）
　副会長　　重田勝也（名瀬）
　応援団長　勝　秀成（徳之島）
平成 26 年　新組織編制
　会　長　　濵畑秀夫（笠利）
　副会長　　久保一元（喜界）
　副会長　　勝　秀成（徳之島）
　幹事長　　前島利夫（龍郷）
　地区幹事　各郷友1名

会　長 濵畑秀夫
副会長 久保一元
応援団長兼副会長 勝 秀成
幹事長 前島利夫

ホームページなし・Facebook なし

私の履歴書

会長 濵畑秀夫

出身地：奄美大島　笠利町手花部
現住所：鹿児島県霧島市隼人町神宮 2-3-46
TEL&FAX：0995-42-4980
Mobile：090-2516-8754
出身校：手花部小学校→赤木名中学校→大島実業高校笠利分校（現大島北校）
NPO 法人 Joy ステーション　お助けマンきりしま

★生まれたシマに対する思い

昭和42年3月7日、奄美群島から7名が国分自衛隊の門をくぐり同期の桜として入隊。3ヶ月の新兵教育のなかで、島口で話す仲間との日常会話が本土の隊員から馬鹿にされ揶揄されるにつけ、生まれ育った故郷奄美を否定されたような思いがわき上がり、諍いも絶えない中で磨かれたのが「すとごれ魂」で、これが私の精神のよりどころとして、現在に至っている。

★シマの財産とは？伝えていきたいこと

1 人情に厚い島んちゅの心
結いの精神に基づく奄美の心
2 豊かな自然環境開発の波に流されることのないありのままの姿
3 地域の生活に密着した伝統文化
それぞれの風土に培われた伝統の島唄
五つの島々に根付く生活文化
語り継がれた島のことわざ

★日本復帰への想い・取組み

【想い】

日本復帰の昭和28年12月25日、私は6歳。おぼろげながら日の丸行進のみ記憶に残っている。群島民20余万の悲願、先人の壮絶な復帰運動等苦難の歴史に思いをいたし、風化させることなく後世に語り継ぐべき。

【取り組み】

鹿児島奄美会主催の奄美群島日本復帰60周年記念コンサート各種サポート
1 60周年記念事業の周知
2 広告協賛
3 コンサートチケット販売
4 開場に伴う受付業務

★私の成功哲学

座右の銘は「迷ったらやれ（すすめ）」人生において進退の選択で悩むこと多し、やらずに後悔するより、失敗を恐れずやってみよの意。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

鹿児島には「泣こよっかひっとべ」という昔からの教えがあり、この教えの基に日本を代表する多くの偉人たちを輩出している。何をなすにも下積み時代がある。島から海を渡り一歩外に出るからには「すとごれ魂」をもって。「わーかんとうきぬ　なんぎやこーていでもすいりゃ」である。また、鹿児島には鹿児島奄美会、霧島市奄美会、姶良奄美会、加治木奄美会、薩摩川内奄美会があり、また日本各地に奄美会が組織されており就職相談、その他等各先輩方からアドバイスや手助けもできると思います。島んちゅの絆のもと、がんばりましょう。

★シマを出てからこれまで

【卒業後の履歴】

1967(S42).3	陸上自衛隊へ入隊（国分）
1971(S46).7	陸曹昇任（国分）
1972(S47).3	国分教育隊へ転勤（助教）（国分）
1980(S55).4	幹部候補生（久留米）
1981(S56).	幹部任官（国分）
1981(S56).4	北海道へ転勤（小隊長）（札幌）
1989(H 1).8	鹿児島へ転勤（運用訓練幹部等）（国分）
1992(H 4).	国分駐屯地奄美会会長就任
1994(H 6).8	国分教育隊へ転勤（中隊長）（国分）
1997(H 9).8	沖縄へ転勤（広報幹部）（那覇）
1999(H11).8	鹿児島へ転勤（中隊長）（国分）
2001(H13).11	定年退職
2002(H14).1	国分公共職業安定所就職（国分） 求人開拓推進員
2006(H18).3	〃　退職
2006(H18).4	都築教育学園第一工業大学就職（国分） 就職課勤務
2009(H21).3	都築教育学園第一工業大学就職課長
2010(H23).12	第2代　霧島市奄美会会長就任
2012(H25).3	都築教育学園第一工業大学定年退職
2012(H25).5	NPO 法人 Joy ステーション就職（隼人） 4月の開設から関与し、現在に至る。

鹿児島奄美会

スローガン

会員相互の親睦を図るとともに郷土発展に寄与する

●鹿児島奄美会が誕生した経緯と想い

大正7年（1918年）、鹿児島市内にあった各郷友会（1町19村）の連合組織として創立され（名称「在鹿大島郡人会」）、以来鹿児島在住奄美出身者の互助活動等を中心として活動を継続し、今日に至る。

現在、鹿児島笠利会、鹿児島喜界会、鹿児島龍郷会、鹿児島名瀬会、鹿児島瀬戸内会、鹿児島徳之島会、鹿児島天城会、鹿児島徳南会、鹿児島沖洲会及び鹿児島与論会の10郷友会の緩やかな連合会として構成され，活動している。

【主な活動】

（1）新年会…毎年1月下旬の第4（又は第5）日曜日に開催

当会を構成している10郷友会の会員のほか、近隣の薩摩川内市奄美会、姶良市加治木奄美会、姶良市奄美会並びに宇検、住用、大和の代表者（有志）の参加があり、200人程度参加し、会員の余興もあり楽しく賑やかに行っている。

（2）総会…毎年5月下旬の第4（又は第5）日曜日に開催

総会は役員と代議員で構成。各郷友会会長は役員（副会長）として参加し、代議員は各郷友会4人となっている。60人程度で開催。

（3）おはら祭りへの参加

平成12年以降毎年参加している（平成26年まで連続15回）。

10月から練習を重ね、150人前後の踊り連として参加し、揃いの法被で鹿児島奄美会の存在をアピールしている。

奄美群島日本復帰記念事業については、15周年、30周年、40周年、50周年、60周年に会として総力を挙げて取り組んでいる。特に平成25年の復帰60周年記念事業は、宝山ホール（県文化センター）で島唄の大御所3人、若手実力者3人による島唄のほか奄美歌謡、吹奏楽演奏、郷友会による郷土芸能などを盛り込んだ記念コンサートを実施し、1500人を上回る来場者で盛況であった。

会　長　池山 泰正
〒891-1104　鹿児島市油須木町 683-2
090-5384-0553
幹事長　喜入 章夫
〒890-0031　鹿児島市武岡五丁目 36-3
090-3079-4035
会計　秋山 静夫
〒890-0068　鹿児島市東郡元町 7-1-505
080-5257-6966

鹿児島奄美会の経歴

大正 7 年（1918）旧 8 月　在鹿大島郡人会創立（1 町 19 村）
　会長：關祐一郎（笠利村）幹事長：武山宮信（常任幹事／和泊村）
昭和 21 年（1946）5 月　鹿児島県奄美連盟創立総会
　会長：武山宮信（和泊村）幹事長：吉村佐衛豊
連盟創立後まもなく 「鹿児島奄美会」に名称変更
　会長：武山宮信（和泊村）幹事長：寿常次郎（事務局長）
昭和 26 年（1951）8 月　鹿児島県奄美大島日本復帰協議会結成。
　委員長は岩切 重秀（龍郷村）
　会長：榊純則（天城村）　幹事長：平窪池島（和泊村）
昭和 26 年（1951）11 月　在鹿大島郡人会（名称変更）
　会長：福島又二（徳之島）幹事長：永井文次（事務局長）
昭和 29 年（1954）1 月鹿児島奄美会（名称変更）
　会長：福島又二（徳之島）幹事長：永井文次（事務局長）
昭和 43 年（1968）12 月奄美群島日本復帰 15 周年記念（54 名参加）
　会長：福島又二（徳之島）事務局長：福田義茂（副会長兼事務局長／瀬戸内町）
昭和 47 年（1972）3 月　本場大島紬を守る総決起大会（紬関係者、奄美会会員 2,000 人）
　会長：比地岡栄雄（笠利町）　事務局長：福田義茂（副会長兼事務局長／瀬戸内町）
昭和 47 年（1972）10 月国体秋季大会（太陽国体）8 月踊り（男女 360 余名出演）
　会長：比地岡栄雄（笠利町）　事務局長：福田義茂（副会長兼事務局長／瀬戸内町）
昭和 58 年（1983）7 月　芸能祭（1、500 余名来場）民謡日本一築地俊造氏ほか
　会長：嘉野長夫（龍郷町）幹事長：真鍋松男（名瀬市）
昭和 58 年（1983）12 月奄美群島日本復帰 30 周年記念祝賀忘年会（140 余名参加）
　会長：嘉野長夫（龍郷町）幹事長：真鍋松男（名瀬市）
昭和 60 年（1985）7 月芸能祭（1、500 余名来場）築地俊造氏、西和美氏ほか
　会長：嘉野長夫（龍郷町）幹事長：幾村清徳（与論町）
平成 5 年（1993）11 月　奄美群島日本復帰 40 周年記念鹿児島大会（300 余名参加）
　会長：中原時秀（天城町）幹事長：喜入章夫（副幹事長／瀬戸内町）
平成 12 年（2000）11 月　おはら祭り初参加（90 余名参加）
　会長：泉信喬（伊仙町）　幹事長：秋山静夫（幹事長兼会計／喜界町）
平成 15 年（2003）9 月　奄美群島日本復帰 50 周年記念講演・芸能祭（350 余名参加）坪山 豊氏ほか
　会長：島田俊秀（和泊町）幹事長：福崎榮市（伊仙町）
平成 21 年（2009）12 月　鹿児島奄美会誌発行（創立 90 周年記念）編集委員：大野 照好、泉 信喬、島田 俊秀、西 春陽、川上 哲三、福崎 榮市、秋山 静夫、喜入 章夫、宮里 直治
　会長：大野照好（龍郷町）幹事長：喜入章夫（瀬戸内町）
平成 25 年（2013）12 月　奄美群島日本復帰 60 周年記念コンサート
　会長：池山　泰正（笠利町）　幹事長：喜入章夫（瀬戸内町）

※1　新年会、総会は毎年実施　※2　おはら祭りは平成 12 年以降毎年参加（平成 26 年まで連続 15 回）

ホームページなし・Facebook 鹿児島奄美会

私の履歴書

会長 池山泰正

出身地：奄美大島　笠利町赤木名
生年月日：昭和 14 年 12 月 3 日（満 75 歳）
現住所：鹿児島市油須木町 683-2
e-mail：y-ikeyama@tune.ocn.ne.jp
TEL&FAX：099-298-3460
出身校：鹿児島県立大島高等学校

父親の仕事（警察官）の関係で朝鮮にて出生。終戦により昭和20年12月、6歳の時に父母の故郷笠利町（赤木名）に引揚げてきた。

地元の小・中学校・高校（大島高校）を卒業後、昭和36年に鹿児島県庁に入庁。昭和45年、異動で本庁勤務となり、現在の鹿児島市に居住。故郷を離れて今年で45年になる。県庁では、離島振興課、地方課、財政課など主として企画・総務畑で勤務。

平成4年、52歳の時、県からの出向で郡山町の助役に就任。その縁で平成7年4月の郡山町長選に出馬。幸いに多くの皆さんのご支援で当選することができ、鹿児島市との合併により退任した平成16年10月まで、3期9年半、郡山町長を務めた。

その後、合併後の特例選挙に出馬。平成20年4月まで鹿児島市議会議員を務めた。現在、鹿児島奄美会会長や鹿児島県庁奄美OB会会長などをしている。

★生まれたシマに対する思い

故郷奄美は温暖な気候、豊かな自然環境、生活に密着した多彩な伝統文化、豊かな人情、個性的な食文化……これら全てが私にとって自慢であり、誇りです。奄美には、日本人が失いかけている本来の日本の良さが色濃く残っている。今、奄美は世界自然遺産登録に向けて大きく動き出しているので、この機会に奄美の素晴らしさを全国に発信していく必要があると思う。

私たち郷友会会員も故郷の応援団として、奄美の発展に寄与していきたい。

★日本復帰の取り組み、活動など

私は終戦の年、昭和20年12月に外地から引揚げてきた。翌年2月、日本から行政分離。その年に小学校に入学した。当時は食べるものがなく、ソテツの実で作った「ナリガイ」やからいもで飢えを凌ぎ、教科書もなく、かやぶきの校舎で学ぶという厳しい環境の中で育った。

当時の日本は、どこも厳しい状況にあったが、とりわけ奄美は本土から行政分離され、渡航や生活物資輸送などの厳しい統制で郡島民の生活は苦難と困窮の極みであった。その頃の様子が今でも思い出される。

奄美が日本に復帰した時は中学生でしたが、学校での弁論大会で復帰を訴えたり、奄美の実情を知ってもらうため、本土の学生との文通などもしていた。

復帰した12月25日には提灯行列で町中を練り歩き、歓喜の声が沸き上がっていたのが今でも忘れられない。

★私の成功哲学

しっかりとした目標を持ち、その目標達成のため日々精進すること。社会に対する奉仕の精神を忘れないこと。常に思いやりの心を持つこと。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

奄美は、日本のどこにも負けない素晴らしいところです。故郷奄美に自信と誇りをもって活躍してほしい。目標を定め、その目標に向かい全力で努力してほしい。

沖縄奄美会

スローガン

模合（モアイ）＝結（ユイ）＝助け合いをモットーとし出身者の親睦と想いの寄り所としています。奄美と沖縄の交流のお手伝いをしていきたい。

●沖縄奄美会の経歴

〈昭和28年、在沖奄美連合会を結成〉

「戦後果たしてどれ程の人が沖縄に渡り、どんな苦労をしたのか、本当の事は解からない……」と識者の間で今も語られている奄美出身者、特に沖縄県の復帰まで「非琉球人」として厳しい制約の中で生き抜いた先人達。

当事者が「語らない、書かない」、沖縄の人達も沖縄の戦後復興と今日の社会基盤の基礎作りに貢献した奄美出身者の功績を事実として認めながらも「語ってくれない、書いてくれない」実情、公文書館の資料では解からない、一般民衆の状況を知るにはあまりにも記録が少なく知られていない。

昭和28年12月1日、奄美群島祖国復帰を前にして、自己の身分・将来への不安等で混乱する出身者の状況を憂い、有識者や心ある有志が結集して、在沖奄美連合会を結成し「どれ程の人が、どこの地に住んでいるか確認できないまま」本島各地に地区奄美会を結成し、それぞれの地で外人登録（在琉申請）・パスポート申請・渡航手続き・就職・身元保証など多岐に渡る相談窓口として、全てボランティアによる組織として設立された。

奄美復帰から沖縄の祖国復帰までの間は日常の生活に関わる問題の相談に対応する傍ら、軍政府による「在琉奄美人に対する処遇」に見られる布令等に対する処遇改善（身分保証・税処遇・選挙権の付与）を求めて軍政府と民政府はもとより日本政府に陳情要請を繰り返し訴えながら、その活動は多岐にわたっている。

注：昭和37年1月、在沖奄美連合会長の泉有平会長は、立法院行政法務委員会において参考人として「在琉奄美人の実情と、処遇改善を求めた」意見陳述を行っている。選挙権一つをとっても昭和44年の三大選挙でようやく実現をみている。沖縄奄美連合会の設立の経緯から、一般に言われる郷友会の設立と異なる目的で結成されている。

〈先達の生き様、足跡を残す活動〉

奄美人と公然と語れない厳しい環境の中で過ごしてきた人達が、沖縄県の復帰後やっと奄美出身者として堂々と胸を張れる時代を迎え、抑えに抑えていた島への郷愁を一気に爆発させるかのように「島唄・島口大会」の実施、「奄美の民謡と民話」の本の発刊等を精力的に行っていった。

先輩達の「奄美は一つ・同胞愛」、「絆の深さ」等、島人としての誇りと故郷への想いを知るにつれ、また私自身、島唄をきっかけに、絶海の孤島と厳しい台風常襲地帯という地理的条件、琉球・薩藩時代の過酷な歴史を経て、戦後祖国と分離された環境の中で世界に誇る民族運動と語られる「奄美の復帰運動」や、豊かな自然と素晴らしい伝統文化を残された先人の逞しさに感銘しました。

こうして島を知ることで奄美人としての自信と誇りを持つようになったこと、また昭和50年代初頭から沖縄ー奄美の交流が活発になり、行政・民間を問わず関わって来た経緯もあり「島さばくり」を生き甲斐とするようになりました。「歴史の陰」とも語られている在琉出身者の沖縄における生き様に関心を持ち、その足跡を記録として残したい思いから、創立60周年を機に40年余収集した資料を元に約6年近くかけて、初の連合会記念誌として『愛郷無限ー沖縄に生きる奄美人ー』を発刊しました。島の現状と将来を憂いながら沖縄の地で何か手伝いできることがあるはずと、島さばくりに明け暮れる日々を送っています。

〈今後の課題〉

時代の流れか、自由な生き方を求める時代、人それぞれ生き方があり、強制もできない、心ある人たちが集まり互助、親睦・融和を目的とする親睦団体である郷友会。個人情報保護法の関係で名簿作成にも気をつかう時代となり、それでも、時代の流れと共にその存在意義を認識して、活動も変化していかざるを得ない。

戦後の苦しい時代を「知る・語る人」が少なくなり、故郷への思いや「生まれ島」という言葉も忘れられがちな時代に、大島高校の甲子園出場で島外に出た人達を含め、奄美人としての同胞愛・郷愁を奮い起させた功績、奄美人の持つ特異な民族意識なのか。今の時代、どこの地でも郷友会の今後の存続は後継者問題が最大の課題であり悩みであることに変わりはない。

私自身70歳を超え60周年事業をもって前会長と共に卒業を考えていましたが、後継者も決まらず継続自体が憂慮される中、今までの生き方を否定する事も出来ず、会長という大役を引き受けざるを得ない立場となった。しかし、会としての存在が心配される中でも、誰かが企画し、引っ張る人がいれば、これまで実施してきた事業成功を考えるとまだまだ組織としての底力はあると確信している。

沖縄県内における、県庁始め行政、経済・商工・文化団体、マスコミ各社の沖縄奄美連合会に対する存在意義は高く評価されており、今更「灯を消す」事も出来ない。これも、先人のこれまでの沖縄県内における活動と功績のお陰である事を考えると、今この地に住む者としての責任は大である。気負わず、できる範囲で、思いが解かる後輩が育つ事を願うのみである。

ホームページなし・Facebook なし

私の履歴書

会長 奥田末吉

出身地：奄美大島龍郷町龍郷
生年月日:昭和 18 年 10 月 9 日(満 71 歳)
現住所：沖縄県糸満市兼城 492-9
TEL& FAX：098-994-7650

故郷を離れて52年余、「人生はこれで良かったのか……」と振り返るこの頃、「郷友愛（同胞愛）とは、辞書に「自然的な感情の発露として同胞を応援する行為」とある。祖先崇拝は日本人として受け継がれてきた素晴らしい文化である。

奄美に生まれた者として、島外に出ていかざるを得ない宿命を背負った者の一人として、帰りたくても帰れない「産んでくれた父母に、育ててくれた故郷に」何かをしなければと思う気持ちを持つのは人として当然のことと思う。ならば「住んでいる地域に居て何かできる事があるはず……」と、渡沖以来42年余、行政・民間を問わず奄美と沖縄の交流事業すべてに関わりながら、今も365日、故郷の動向に気をもみ、台風情報や大雨注意報に釘づけになり何もなければと祈る。

島の人達によく話すのは「島の人が島を好きになること」でありそのためには、住んでいる人達が島の歴史を知り、先人の偉大さを知り、島に生まれた誇りと自信を持つ、それを後世に伝えるという思いを一つにする。全てがこの事に集約される事ではないかと、他力本願でなく自分たちの手で力を結集し、知恵を出し合って奄美の未来を築く事であると思います。漸く奄美群島の行政が広域としてまとまり、経済・商工団体が一つにまとまり一丸となって奄美振興に取り組む「奄美群島成長戦略ビジョン」が国に認められた、奄美が生き残るための知恵を出し合っていくしかないと考えます。

大島高校の選抜出場は、全国同胞の生まれ島への郷愁を呼び起こし、奄美人の底力をまざまざと証明した証であり、青少年に夢を与えた功績を讃えたいものです。

超高齢化時代を迎え、若者は便利さを求めて都会に集中し、過疎地問題・限界集落や町村消滅が話題となる昨今、ふるさと奄美が生き残る為には如何に在るべきかと思う心ある出身者は多いと思う。「島狂れ者、島バカと言われようとも」微力でも、誰かがしなければとの想いで過ごした人生に誇りを持ち、余生を過ごしていきたい。

★私の成功への哲学

哲学とか大それた事は持ち合わせておりません。人としてそれぞれ生きる中で、その人相応の生き方があり、その人なりの環境の中での人生があると思います。成功とは何か、財力？ 名誉?か、「子としての親への孝行は、子の親として家庭人として、社会の一員として、生まれた故郷に何をしたか」

選んだ仕事に精いっぱい打ち込み、ささやかながらも生甲斐を見つけ打ち込めるものを持てた事に感謝し、70歳を超えて生きた証として自分を振り返る今日この頃、20代後半で「生まれ島」に関心を持ち、多くの人との出会いと学び、離れていても故郷に関われた事に感謝し、悔いのない人生だったと、小さな人生でも誇りであることを子や孫に伝えれば幸せです。

★今後の取り組み

沖縄の地で、先人が築いてきた「生まれ島への思い・奄美は一つ」との想いを継承し、奄美人としての誇りと自信を伝えながら、故郷奄美と沖縄の交流発展に出身者として貢献していきたい。

★シマを出る子供たちへのメッセージ

島に生まれた者として島を出ていかざるを得ない宿命を背負った奄美の人達、全国はもちろん世界各地で活躍している奄美出身者は多い。グローバル化の時代、思いっきり羽ばたける可能性を秘めた時代に生まれて前途洋々と未来に向かってはばたいて頂きたい。

島の歴史を知り、台風常襲地帯という地理的に厳しい自然環境と歴史的経緯の中で生き抜いてきた奄美人のストゴレ精神を理解し、世界に誇れる自然と伝統文化を残し、人材の島と語られている先人の偉大さ、奄美出身者としての誇りと自信を持って、与えられた人生、大きな夢と希望を持って社会の荒波を乗り越えてもらいたい。ただ、どこに居ても父祖の地・生まれ育った島を忘れないでほしい。

★シマを出てからこれまで

昭和 39 年（1964）3 月　大島高校卒業後、陸上自衛隊入隊（鹿児島 - 茨城 - 熊本 - 沖縄勤務）
平成　9 年（1997）定年退官。
武道：相撲 2 段、銃剣道 5 段、空手 3 段、元陸上自衛隊格闘指導官
趣味：地域ボランティア、島唄、島さばくり
昭和 47 年（1972）5 月　沖縄復帰と同時に自衛隊第一陣として沖縄移駐
昭和 48 年（1973）頃～　在沖奄美出身者と交流を深め、以来郷友会活動に関わる。当時沖縄奄美連合会長の荒垣顕治氏（同郷先輩）との出逢いを機に、当初は裏方として活動の手伝いをしながら在沖の奄美群島出身（明治、大正、昭和初期）生まれの先輩方の薫陶を受ける。以来、「島狂れ者（島馬鹿）」と言われながら沖縄における、①郷友会活動、②奄美の島唄、奄美芸能の普及啓蒙、③奄美の情報伝達（観光･物産･行事等情報）、④奄美－沖縄交流関係事業の手伝い、⑤奄美群島（人･物）に関する問い合わせ相談等奄美群島に関して「奄美よろず相談家ボランティア」開設
平成 19 年（2007）3 月～　沖縄名瀬会会長
平成 26 年（2016）6 月～　沖縄奄美連合会会長

南カリフォルニア奄美会

スローガン

本会は会員相互の親睦と融和を目指し、奄美及び関係諸団体との連携を保ちながら相互援助、伝統芸能保存に寄与することを目的とする。

★奄美会ＵＳＡが誕生した経緯と想い

米国にて奄美会が発足されたのは１９７５年の暮れ、沖永良部・和泊町出身の源栄蔵氏の自宅で奄美出身者５～６名が集まり、「島んちゅうの飲み会を時々持とうではないか」と話しあったことがきっかけです。１９９１年11月16日には発会式を行い会則も作成、正式な親睦団体として発足し現在に至ります。

南カリフォルニア奄美会では、ホームページ（http://www.amamikaiusa.com/）によりまして奄美大島及び奄美の伝統を世界に向けて紹介し、皆様との交流の場としてご利用頂けたらと願っております。

本国奄美の人々及び会員の方々との交流を深め広めて行く事を主旨に、各種イベント企画を執り行わせて頂きたく何とぞ、皆様のご参加ご支援をお願い申し上げます。これからもいくつ

★奄美会ＵＳＡの目的

本会は会員相互の親睦と融和を目指し、奄美及び関係諸団体との連携を保ちながら相互援助、伝統芸能保存に寄与することを目的とする。

★奄美会ＵＳＡのイベント企画

奄美出身のアーティストや団体で、日本で活動的にされている方々を私たちは応援しています。私たち南カリフォルニア奄美会は、そういう皆さんがさらなる発展を遂げるために、アメリカ国内でイベントを行いたいと思っている時の窓口や相談役となり、お手伝いをしたいと思っています。

〈これまで私たちが関わったイベント〉

・総勢32名の奄美大島民謡団による、ニューヨーク市カーネギーホール公演に続くロサンゼルス公演を応援（１９９０年）

・与論島出身のかりゆしバンドと小野綾子さんの公演（ＬＡ・キークラブ）を後援（２００４年）

・喜界島出身の画家まこすがの女史の個展（ソラデザイン　ギャラリー）を応援（２００５年）

・奄美島唄と紬祭りチャリティショーを　催　行（Holiday Inn Torrance）（２００７年）

※日本から中村瑞希、吉原まりか、ネリヤカナヤの平田輝、武田まゆみ、禎一馬の5名の元気な唄手により奄美の風を感じた約５００人の観客は、奄美島唄に酔いしれ、最後は六調で締めました。また、紬デザイナーの本田涼子氏により、素晴らしい伝統文化の大島紬をＬＡの皆様に紹介していただきました。

南カリフォルニア奄美会の経歴

1975 年	沖永良部・和泊町出身の源栄蔵氏の自宅に奄美出身者が集まり、島んちゅうで定期的に飲み会を開くことを話しあう
1976 年	第２回目新年親睦会（参番館）。その後、ロサンゼルスの栄菊レストラン（１回）、サンタモニカの安芸レストラン（３～４回）、ガーデナの天津レストラン（４～５回）、あつがレストラン、K ちゃんレストラン（１回）、栄光レストラン（１回）等が当時の新年会、忘年会の会場に。初代会長の源氏には、1975 年から 1989 年迄長期に亘り、会の為、すべての面で尽力いただいた
1990 年 5 月	親睦会（天津レストラン）にて 2 代目会長に徳之島伊仙町出身の中川四郎氏を選出
10 月	石原良一郎氏を団長とした奄美大島民謡団（総勢 32 名）による、ニューヨーク市カーネギーホール公演に続くロサンゼルス公演（観客 700 余名）。この時の純益を PANA USA、日系引退者ホーム、オレンジ郡日系協会に寄付する
1991 年 11 月	南カリフォルニア奄美会の発会式（ホリデーイン）。会則を作り正式な親睦団体として発足
1992 年	鹿児島県人会主催のピクニック、バレーボール大会。チャリティーゴルフ大会（奨学資金捻出）へ参加
1995 年 1 月	阪神大震災被災者（島出身者）への義援金を募り、神戸奄美会（渡会長）へ送る
1997 年 5 月	鹿児島県より県市長村議会議長一行による米国視察団が訪れる。一行 20 名の内、奄美関係者 11 名
1998 年 2 月	奄美会総会にて 4 代目会長に龍郷町出身の黒木猛氏を選出。初代会長の源栄蔵御夫妻が帰島される
10 月	ソフトボール大会（ファンテンバレー市のマイルスクエア・パーク）に 2 チーム参加し、B チームが念願の優勝（全 12 チーム）
1999 年 10 月	県人会創立 100 周年記念行事の一つ、母国訪問団が鹿児島を訪れる
2000 年 6 月	南カリフォルニア奄美会創立 25 周年記念祝賀会を開催
2003 年 5 月	鹿児島県人会主催のバレーボール大会で奄美チームが優勝
11 月	天皇、皇后両陛下ご臨席のもと名瀬市内の文化センターで執り行われた「奄美群島日本復帰 50 周年記念式典」に南カリフォルニア奄美会より 15 名が参加
2005 年 5 月	南カリフォルニア奄美会創立 30 周年記念祝賀会（シーエンペラス・シーフードレストラン）
5 月	創立 30 周年記念の一環として新撰組ゴルフ・トーナメントを協賛（リンクス・アット・ビクトリア・ゴルフ・コース）
2006 年 1 月	AMAMIKAI USA オフィシャルサイト　オープン（http://www.amamikaiusa.com/）
1 月	奄美会新年会を新撰組（ガーデナ市）にて行なう。
3 月	牧野先生の歓迎会を新撰組（ガーデナ市）にて行なう
6 月	奄美会ゴルフトーナメントを開催。The Links at Victoria（カーソン市）
7 月	ブリッジ USA 夏祭りに出店。カルチャー・アーツ・センター（トーランス市）
2007 年 8 月	「奄美島唄と紬祭り」開催。Holiday Inn　（トーランス市）
12 月	役員会と原成仁さん歓迎会（奄美市より Japan Expo に大島紬を出展）
2008 年 6 月	奄美会主催　第 4 回ゴルフトーナメントを開催。The Links at Victoria（参加者 77 名）
2011 年 3 月	奄美会新年会にて、幹事の西元さんより前年の奄美大豪雨の被災者に対して奄美会他、県人会協議会、各県人会等より合計約 $6,000.00（日本円に換算して約 500,000 円）を奄美市の朝山市長に手渡し報告
2013 年 12 月	奄美会の忘年会を奄美群島日本復帰６０周年を祝うために新撰組レストランにて開催

ホームページ：http://www.amamikaiusa.com・Facebook なし

※情報はホームページより引用